

地域の核となる自治会

西下 敦基（市民ネット）



Q 近年の自治会の課題や相談内容、加入率の推移は。

A 地域とのかかわりが希薄になり、自治会活動に参加しない住民が増え、役員選出には毎年苦勞されている。相談には、高齢者世帯の増加などによる役員のなり手不足、加入による自治会費の負担、会議や行事への参加に伴う負担などの内容が多く寄せられている。加入率は平成27年度85・3%に対し、昨年度は82・8%となっている。

Q 小規模自治会では役員選出など苦慮しており、適正な規模への検討は。

A 市から人口世帯数等に応じて再編することは検討していない。自治会から相談があれば対応していく。

Q 各地区で選出する役員について、引き受けやすくするよう報酬を上げることや役職の具体的な説明・意義を伝えること、適正な人材の紹介をするなどの対応はできないか。

A 任期を迎える次期役員の選出



については12月の連合自治会定例会で活動内容、報酬額等を示して依頼している。人材の紹介は個人情報観点から困難であり、報酬額の改定も現在考えていない。活動内容や意義の説明等は連合自治会から意見をいただきながら検討・見直しを図っていく。

Q 地区長や自治会役員の負担軽減や各種行事の見直しの検討は。

A 連合自治会からも同様の意見をいただいております、見直しを図っていく。

他に「今後の産業振興施策」について質問しました。

より充実した発達障害支援を

倉部 光世（市民ネット）



発達障害に関することは「保健福祉」が生涯にわたり途絶えることなく見守る体制が必要。それにより学校は障害の判断に責任を持つより、障害に応じた教育の提供に責任を持つことができるようになる。

Q 市の具体的な取組を周知すべきでは。

A ホームページには発達障害への気づき、就園就学前の流れ、ステージ別の対応をフローチャート化するなどして市の取組を掲載していきたい。

Q 学齢期に入ってから発見しやすい学習障害については、※URAWSS等の検査を行う方が効果的では。

A 色々な検査を研究しながら、有効なものがあれば取り組んでいきたい。

Q 支援級を希望した際の医師の診断書の必要性は。

A 支援充実のため、医療機関等への受診を勧め診断書の提出をお願いするが、提出が難しい場合、医師意見を記載した保護者からの申出書で対応。



子育て応援課の「きくすくファイル」

Q タブレットの使用など合理的配慮について、各校で統一する必要性は。

A 有効なアプリ等を見つけたら他校とも情報共有を進め、取組を有効にしていきたい。

Q 個別管理ファイルの作成状況は。

A 10月から運用開始。保護者、学校への周知も進めたい。

Q 発達障害等に係る福祉と教育について、ワンストップ窓口設置の必要性は。

A 当面はそれぞれの部署の連携をさらに深め、発達支援に取り組む。

※「URAWSS（ウラウス）」とは：小中学生の読み書き速度を評価し、読み書きが苦手な子ども達に支援技術等を活用した支援を行うために作成された検査。